
岡田茂弘先生の退官にあたって

濱島正士

本館創設以来、考古研究部長、情報資料研究部長の要職を歴任された岡田茂弘先生が、本年3月をもって停年退官されることとなった。先生は千葉大学で地学、同志社大学大学院では文化史学を修められたあと、奈良国立文化財研究所・文化財保護委員会事務局記念物課・宮城県多賀城跡調査研究所・宮城県東北歴史資料館・文化庁国立歴史民俗博物館設立準備室を経て、1981年歴博開設と同時に考古研究部助教授として着任された。設立準備室時代を含めると、24年にわたって本館のために尽力されてきたもので、数少ない歴博生え抜きの教官のお1人である。

その間、'91年6月以来歴博の運営協議会議長を務められ、本館の運営に関して努力されてきた。また、'90年から2年2ヵ月間、延43回に及んだ将来計画検討会議では議長として計画案をまとめられた。私もこの委員会に参画したが、個性の強い7人のメンバーの異なる意見を一つにまとめ上げられた手腕には敬服したのであった。館外においても、学術情報センターや県立博物館等の運営協議員、地方公共団体の史跡調査整備委員会等の委員を数多く務められ、地域の歴史研究・文化振興等に広く活躍されている。展示に関しては、常設展示全体の基本構想に深く係わられ、'83年に開館した第1室では5テーマのうち「日本文化のあけぼの」と「律令国家」の展示プロジェクト委員として中心的役割を果たされた。

先生のご研究は日本歴史考古学を専門とされ、共同研究では「古代集落遺跡の研究」（'83～'85年）の代表者として研究を総括され、歴博研究報告第22集（'89年）をまとめられた。また、特定研究「古代東国の地域的特性（2）居館」（'87・'88年）の代表者もされている。個人的には、古代から近世の城柵・城館に関する研究を主要課題とされ、時代的に幅広い研究を進めておられる。なかでも、多賀城跡に関するご研究の業績は顕著で、その成果が東北歴史資料館の展示にも生かされた。近年は、徳川將軍家の旅行のために設けられた宿泊施設に関する研究を進められ、千葉御茶屋御殿・鴻巣御殿・浦和御殿等各遺跡の発掘調査を指導され、その解明に努力されている。そのほか、博物館の役割・機能・組織・情報等についての論考も多い。

また、新潟大学・千葉大学・学習院大学ほか多くの大学の非常勤講師を務められて、大学の専門教育にも係わっておられる。

現在歴博は、組織・展示・研究・教育等いろいろな面で重大な岐路に立っている。こうした時期に岡田先生をお送りすることは、我々にとって痛手ともなろうが、歴博の創設・成長期における先生のご業績は、先生の堅実・穏和なお人柄とともに忘れることはないであろう。

退官されたあとも、本館のさらなる発展のためにご支援とご指導をお願いする次第です。終りにりましたが、今後ともお元氣でご活躍されることをお祈りします。

(国立歴史民俗博物館情報資料研究部)